



ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 99

～数十年あとに 五輪で花開く～

<http://pianomed-mr.jp/>

ソチ冬期オリンピックは素晴らしかった。毎晩遅くまでテレビで応援した人も多いだろう。羽生結弦選手の華麗な金メダル、伝説の葛西紀明選手の銀メダル、本当におめでとう。

我々が期待していたのが、日本のお家芸・スピードスケート男子500mだ。なかなか良い滑走だったが、加藤条治が5位、長島圭一郎が6位と残念ながらメダルに届かなかった。

ここで、驚くべきことが。オランダの選手が表彰台を独占してしまった。いったいなぜだろうか？

今回は、1～2月に行われた大会として、

- ①冬期国体（栃木、ひかりの郷日光国体）
- ②アイススケート・マスターズ大会（帯広）
- ③ソチ冬期オリンピック塩（ロシア）

などに関わるエピソードに順次触れてみたい。

日光で冬期国体

冬期国体は毎年1月下旬に行われている。筆者は長



図1

野五輪（1998）の清水宏保選手に感動してアイススケートを開始。国体標準記録を突破し、翌年の長野国体にデビューした。

42歳で初出場という目新しさもあり、NHKで全国放映された。しかし、500mで7人同時スタート直後に足が接触して華々しく転倒。記録でなく記憶に残る選手として一世を風靡した。5年間出場したが、



図2



図3

いずれも一回戦ボーイであった。

今年は栃木県の日光市で「ひかりの郷 日光国体」が開催（図1）。本部席横には「燃えよ！徳島」との横断幕が掲げられ、よく目立つ（図2）。気候もよく、



図4



図5

会場の氷のコンディションも良好だ（図3）。

徳島代表の喜多秀明選手が中々長距離に出場。彼は日本のインラインスケートの第一人者で、近年氷に慣れるとともにスピードがアップ。第一カブの喜多選手と150m遠くの横断幕「輝け！徳島」を撮影した（図4）。長年御世話になっている徳島県、県体育協会、団長の岸一郎氏（徳島銀行相談役）に感謝し、我々の役割として、今後上位入賞を目指したい（図5）。

マスターズ大会

かつて冬期国体に出場し

なると、各都道府県で監督やコーチを担当することに。そして、国体の翌週には、選手として「全日本マスターズスピードスケート競技会」に出場する。

今年は、素晴らしい屋内リンクとして広く知られる「明治北海道十勝オーバル（帯広の森スピードスケート場）」で開催（図6、7）。観客席数が30000

と大規模で、施設のハード面、ソフト面などすべてにおいて優れたものだ。我が国の屋内400mリンクでトップが長野のMウエーブ、次が本リンクという。

マスターズ大会の歴史を振り返ってみたい。国体にはかつて年齢枠があり、A…34歳まで B…35〜44歳 C…45歳以上と3群で競われていた。私



図6

そのお陰で、私は16年前の国体デビュー時と同じタイムで500mを滑走できた。日頃、室内でスクワッ



図7

トを続け、少しずつ足腰を鍛えてきた成果が出て、嬉しく思う（図8）。
我々はマスターズ選手会を設立した（図9）。五輪メダリスト・橋本聖子日本スケート連盟会長のご指導を仰ぎながら、数年後の国際大会への準備を進めている段階である。

なぜオランダが強い？

さて、冒頭の冬期オリンピックの話に戻ろう。なぜ、オランダがあれほど強いのか？ 医師およびスポーツドクターの立場で次のように考えてみた。

①4年前、日本のマスターズ選手6名が初めて海外試合への出場を許された。オランダのHeerenveenで開催された国際マスターズ



図8

以上はプラスの効果だ。参考として逆の場合を示そう。喫煙が増えると、数十年して喫煙の関わる病気が増加。さらに数十年後に喫煙関連



図9

大会だ（図10）。私も世界で最初に作られた屋内リンク（Thialf, 1985）で滑走し、歴史や事情を学び、世界の人々と交流を深めた。
同国の人々は体格が桁違いに大きい。遺伝的要素や蛋白質摂取が関与するのであろう。室内リンクで訓練した人々の子供から孫の世代には、おそらく世界を席巻するのではないかと推測していた。



図10

で死亡する割合が増える。このように、長年にわたり影響がみられる。

②同国には、プロのスケートチームが5個、アイスリンクが50個あり、休日には凍った湖で滑る人々が5万人いるようだ。頂上から裾野まで、スケートが生活に溶け込んでいる。

③リンクは、標高や氷温、室温、観客動員数などの影響で条件が微妙に変化する。諸外国は多くの情報を積極的に集め、対応を研究していたと聞く。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）